



団体様向け(10人用・30人用)セット

多くの方からの声にお応えして、団体様用セットをご用意しました

- 災害発生から3日間は人命救助が優先されるため、ライフラインの復旧や避難所への物資配布は4日目以降に本格化すると言われています。最初の3日間を自分で乗り越えられるように備蓄しておくことが大切です。特に大規模災害が予想されるエリアでは、一週間分の備蓄をお勧めします。

九キ災オリジナル
防災グッズの特長

- 九キ災の防災士が厳選しています。
- 熊本地震で被災された方々の声を参考に選びました。
- 避難所への持ち運びにも対応しています。



命をつなぐ備え、それは私から始まる

お問合せはこちらまで

TEL : 092-873-6235

kyusyuchristdrc@gmail.com

災害発生から 3日間を乗り切るための備蓄を

九キ災オリジナル防災グッズMottoki Nasse(モットキナッセ)。Mottoki Nasseとは、「持っておいた方がいいよ」という思いを、熊本弁の「持つときなっせ」という言葉に託した防災グッズです。

賛助会員 大募集中!! ~認定NPOを目指して~

当センターは認定NPOを目指して準備を整えています。認定NPOになると、寄付金の税制優遇などのメリットがあり、継続して災害に対応する組織としての基盤作りが可能となります。まずは、賛助会員200名(現在130名)を目指しています。皆様のご支援を宜しくお願い致します。

※賛助会員の皆様へ、7月頃に会員更新と2022年度会費のご案内をお送りさせていただく予定です。

■ 賛助会員 詳細は九キ災のHPまたは本部事務局まで

年会費: 賛助会員／(個人)1口1,000円(1口以上)
(団体)1口3,000円(1口以上)

■ 振込口座【NPO法人 九州クリスト災害支援センター】

- ・ゆうちょ銀行／【記号】17420 【番号】81598531
- ・ゆうちょ銀行 振替口座／01720-5-169579
※振込手数料が無料となる払込用紙をお送りしますので、本部事務局までご連絡ください。
- ・三菱東京UFJ銀行／福岡支店
【普通預金】店番 652 口座番号 2613361

※ご送金の際には、九キ災本部事務局までメールか電話でご連絡先をお知らせください。領収書等を後日お送り致します。

■ 宮崎支部事務局(霧島クリスト教会内)

住所 : 〒880-0032 宮崎市霧島 2-20
E-mail : 9kisaimiyazaki@gmail.com
HP : http://miyazaki9ki.html.xdomain.jp/

九州クリスト災害支援センター 本部事務局

〒814-0155 福岡県福岡市城南区東油山6-15-9 (油山シャロームチャペル内)

TEL:092-873-6235 / FAX:092-873-6232
E-mail:kyusyuchristdrc@gmail.com



九キ災
Q検索
九州クリスト
災害支援センター
KYUSHU CHRIST DISASTER RELIEF CENTER

ホームページQRコード

キリストにあってひとつ

NEWS LETTER

2022.4 No.26
NPO法人
九州クリスト
災害支援センター
KYUSHU CHRIST DISASTER RELIEF CENTER



巻頭言 「紡がれた美しい刺繡」

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。」伝道者の書3章11節

私たちクリスチャンは人生のターニングポイントの時に、神様の御言葉によって支えられ、守られるという経験をします。私にとって伝道者の書3章11節はそのような御言葉です。特に11年前の東日本大震災、6年前の熊本地震の時には何度もこの御言葉に思いを馳せ、この御言葉を握って祈りました。また熊本ベースを場所として閉所する中、改めてこの御言葉が心に迫ってきました。

この6年間は関わって下さったスタッフの方々、約13,000名のボランティアの方々によって紡がれた美しい刺繡ではないかと感じます。痛みに寄り添いつづけることは決して簡単なことではありません。そこには寄り添うから経験する葛藤があります。しかし今現在、益城にある教会がともに被災地の痛みに寄り添っています。その根底には痛みに寄り添った人々の紡いだ美しい神のドラマという刺繡があるのです。

神様は私たちに永遠を思うことすなわち祈りの心を与えてくださいました。6年前の熊本自身の日に、誰が今日のことを想像できたでしょうか?しかしどんなに苦しみや悲しみがあっても、永遠の思いの中で祈り続け、神様に従い続けた結果、神様は素晴らしい光景を見せて下さっているのです。九州クリスト災害支援センターはさらに「Lights of Japan」というスローガンのもと災害という痛みと悲しみに寄り添い神様のドラマを多くのボランティアの方々と共に紡いでいきたいと願っています。

副理事長 中村 陽志

熊本地震から6年、 九キ災の歩み。

◆緊急期 2016.4~6

(発災直後から仮設住宅入居時期まで)

作業内容: 災害ボラ、物資支援、避難所、炊出し等



◆移行期 2016.7~10

(避難所解消まで)

作業内容: 災ボラ、物資支援、避難所(後期)、炊出し等



◆生活再建期 2016.10~2019

(避難所解消時期～仮設住宅供与期間終了時期)

作業内容: 支え合いセンター、コミュニティ支援等



ボランティア参加人数: 13,211人
作業依頼件数: 1,620件

◆仮設終了期 2020～現在

(仮設住宅供与期間終了時期)

作業内容: 支え合いセンター、コミュニティ支援等



熊本ベーススタッフより皆様へ

「キリストさんは最後までいてくれるんでしょう?」仮設で行っていた集会所でのサロン「ましきっ茶」で住民さんが言われたことばでした。災害支援では被災された方に「寄り添う」と言うことばをよく聞きます。そのことばの意味をその住民さんが、教えて下さったように思いました。何かをする、しない、ではなく、そこに存在し続けること。そのことが誰かの励ましになっていく。熊本ベースでの働きは、私にとってインマヌエルの神様を体験するときとなりました。この恵みを感謝します。

菅原雅子

ボランティアから始まり、約5年間支援に携わってきました。益城で出会う方々は、前を向いて懸命に生きようとしていました。スタッフとして関わるようになってからは、仮設住宅での課題に直面することもありました。それでも、何か皆さんのがほぐれるような時間になればと、仮設で週1回のましきっ茶を開催しました。住民さんとの時間は本当に楽しい思い出ばかりです。また、国内外からのボランティアさんなど多くの出会いに感謝します。たくさんの愛をありがとうございます。

岡田佳子

熊本地震から6年間の働きの中で、沢山の方々と繋がる機会が与えられ、人の温かさを体験しました。過去に同じ痛みを経験したからこそ、発災直後いち早く被災地に駆けつけてくださったクリスチャンの方や支援団体の皆さんが、何もわからない私たちに丁寧に働きに必要なノウハウを教えてくださいました。真夏の暑い中、大きく傾いた家屋の中から、大粒の汗をかきながら懸命に依頼主の大切な物を搬出してくれるボランティアさん。被災された方の少しでも力になりたいと言葉は通じなくても、笑顔を絶やさず被災された方の傍らに居続けて下さった海外ボランティアの皆さん。ボランティアさんを現場に送り出した後、汚れた黄色いビブスを洗ったり、寝泊まりする部屋を丁寧に掃除したりして下さるご高齢のボランティアさん。歌やメロディに乗せて被災者の心を癒して下さったクリスチャンシンガーの皆さん。学生ボランティアにビーズ編みや折り紙を楽しく笑顔で教えて下さる住民さん。仮設の集会所と一緒にモノづくりをしながら、「楽しかった、今日ありがとうございました。」の言葉に私たちが元気をいたしていました。

そして、直接現地に行けなくても、祈り、励まし、送り出してくださる家族や教会の存在は本当に大きな支えでした。この6年間を振り返ると被災者であっても支援者であっても、誰一人として欠くことができない大切な存在であり、大切な働きでした。九キ災として熊本の働きは一区切りとなります。地域の教会が継続して被災地のために、愛の働きを続けてくださいます。働きが守られるように続けてお祈りください。今まで働きを導いて下さった神様と共に歩んでくださった皆様に心から感謝いたします。

ベースディレクター 諸藤栄一



本部活動報告

◆ビジョンミーティング

理事・スタッフとビジョンミーティングを行いました。Lights of Japanこれまでの3年間の振り返りを行い、次の3年間のビジョンについて話し合いました。2022年度からの3年間は「つながる・そなえる・そだてる」に「つかえる」を加えた4つの働きに取組んでいきます。

◆震災講演会

神戸海星女子学院小学校の「震災講演会」にて講話を担当いたしました。生徒のみなさん、先生方もとても熱心に聞いてくださいました。「災害を経験したことがないが熊本地震のことを学ぶことで、災害への備えをしたいと思いました。」「災害はいつでもどこでも起こる可能性があり、その時には助け合う心が大切だと学びました。」などの感想をいただきました。過去の災害の経験が次に活かされる取組を継続していきます。

◆つながるプロジェクト

西日本災害連絡会、全キ災の会議に参加しています。災害時のスムーズな連携のために、今の関係性を大切にしています。

◆救世軍との連携

熊本ベースの閉所に伴い、備品・資材等の支援関連物資の置き場を検討していましたが救世軍の大牟田小隊を使用させていただけたことになりました。2020年の災害支援では大牟田市社協とも協力関係にあったため、この場所でも地域に仕える働きが期待されます。

